

# 新しい水俣病対策団体

## 超党派で近く発足

水俣市

水俣病は「隠れ水俣病」患者の発掘、市民団体である水俣病市民会議の告発運動などの新しい動きが注目されているが、政党内をな

くして水俣病問題の早期解決に取り組もうとする市民団体が近く水俣市に発足する。二十日から署名活動に入った。

発起人は同市の保守系、革新系を含めた幅広いもので、運動の柱は国、県、市などに水俣病対策を強く迫るものだが、チッソに対し

ては「誠意をもって早期解決に努力するよう」要求している。

発起人は池松信夫（新日本化学KR取締役、市監査委員）今村大喜（市教育委員）田上憲雄（開業医、水俣をよくする会会長）渡辺勝一（県議、無所属）などの各氏で「水俣病問題を水俣市民の総意をもって対処するのが自然の理である」との趣旨で、呼びかけ

ている。発起人の顔ぶれは革新の総意を結集するような組織の「水

俣をよくする会」もあれば、チッソ水俣労組から推された保守系無所属の渡辺県議などもいる。しかしそうした立場を越えて水俣病問題と取り組もうとしている。

運動の眼目は①胎児性水俣病患者など重症者の治療看護を政府が責任持て②中軽症者に対しては心身に適した仕事を③チッソは早期解決に誠意をもって補償問題などを処置するよう④水俣湾のヘドロ

の早期解決など。

③について発起人の一人田上憲雄氏は「すでに新潟水俣病判決で、われわれの直感ではあるが、一応の目安がついたような気がする。せめて一審の判決が言い渡された場合、控訴して裁判を長引かせるようなことがないようチッソに留めたい」と語っており、また運動の動機として「最近の水俣はじめじめすぎている。水俣出身の娘さんの結婚に支障をきたしているなどの話を聞くにつけ、胸が痛む。発起人全員とも政党内をいっさいなくして、超党派で取り組もうと言っている。従来からの水俣病市民会議などとの関連は今後の問題です」と語り。

これらに賛同する市民の署名を集めたらえ正式に団体を構成する。名称は「水俣市民公衆対策協議会」という。